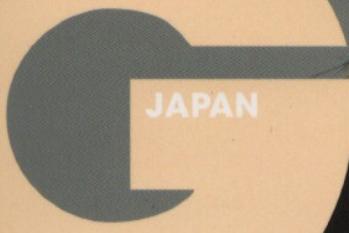


BEST INTERNATIONAL MEN'S MAGAZINE

2013年6月1日発行(毎月1回・1日発行、通巻121号)



GENTLEMEN'S QUARTERLY



6

JUNE 2013
NO. 121

580 YEN

FEATURE

特集

日本人が知るべき 世界の50の ニュース

- >今をときめくデジタルリーダーとセレブの新たな関係
- >世界の終わりがなかなかやってこない理由
- >ドラッグと兵器を売買するオンラインショッピングサイト
- >彼女好みにカスタマイズできるSMグッズがロンドンで大ウケ!

CAR

*10ベスト・カーズ

『GQ』編集長と3人の自動車ジャーナリストが激論!

WOMAN

>Chim↑Pom エリイ、現代アート界の女神

FASHION

>靴から組み立てる夏の装い

GROOMING

>紳士のための空間
ジェントルマンズ・バーバー

JOURNALISM

>高橋源一郎
非電化工房を訪問する



SPECIAL CONTENTS

>特別付録 DVD付き

やっぱり海外
ドラマが面白い

【HOMELAND/ホームランド】
【ゲーム・オブ・スローンズ】
【SMASH】
【ARROW / アロー】



FREE
DVD!!

FASHION BOOK IN BOOK

ラルフ ローレン パープルレーベル
ダンヒル、ディーゼル ブラック ゴールド
バルマン オムの最新ルック

COVER

BRADLEY COOPER
ブランドリー・クーパー
世界で最もホットなオトコ



“ うちらはアートを
世界でいちばん愛している ”



Muse Chim↑Pom エリイ

アートの神に愛されている

渋谷センター街で捕獲したネズミの剥製で作ったピカチュウに、広島の空に飛行機雲で描いた「ピカッ」の文字。いまの日本で「ミューズ」(=芸術を司る女神)という呼び名にふさわしいのは、アート集団Chim↑Pomのエリイだ。地雷を踏むことも炎上も恐れず突き進むそのパワーは、どこから生まれるのか?

Photos: Maciej Kucia @ AVGST Styling: Yoshiko Kishimoto Hair & Make-up: AKANE Text: Takeshi Sato

【P94】ドレス ¥328,650 (MICHAEL KORS /マイケル・コース ジャパン ☎03-5772-4611)
【P96】ショーツ ¥9,030 (Wolford /ウォルフォード・福助 ☎03-3797-3890)
【P97】ジャケット ¥533,400、レースのブラトップ ¥154,350、レースのショーツ ¥122,550 (すべて VERSACE /ヴェルサーチ・ジャパン ☎03-3569-1611)
人差し指についたリング ¥588,000 (TASAKI /タサキ ☎0120-111-446) 中に着たチューブトップ スタイリスト私物

いま、もっとも刺激的な
アート集団。

会いたかった! おそらく5年後か10年後、2013年にエリイにインタビューをしたという自慢話を、どこかの酒場で誰かに聞かせているはずだ。

エリイはChim↑Pom (チン↑ポム) というアート集団に所属するアーティストだから、作品で人となりを紹介するのがスジだろう。というわけで、個人的に初めて触れた彼らの作品である『サンキュー

セレブプロジェクト アイムボカン:チャリティオーラクション』(2007年)を解説していただく。

「中学2年生のときにダイアナ妃が地雷撤去をしているシーンを見て私もやりたいと思ったのが制作のきっかけ」

ここでエリイは、「あーっ、お腹空いた」と、サンドwichをぱくぱく食べる。その仕草とたたみかける早口が、バネ仕掛けの人形みたいでキュート。

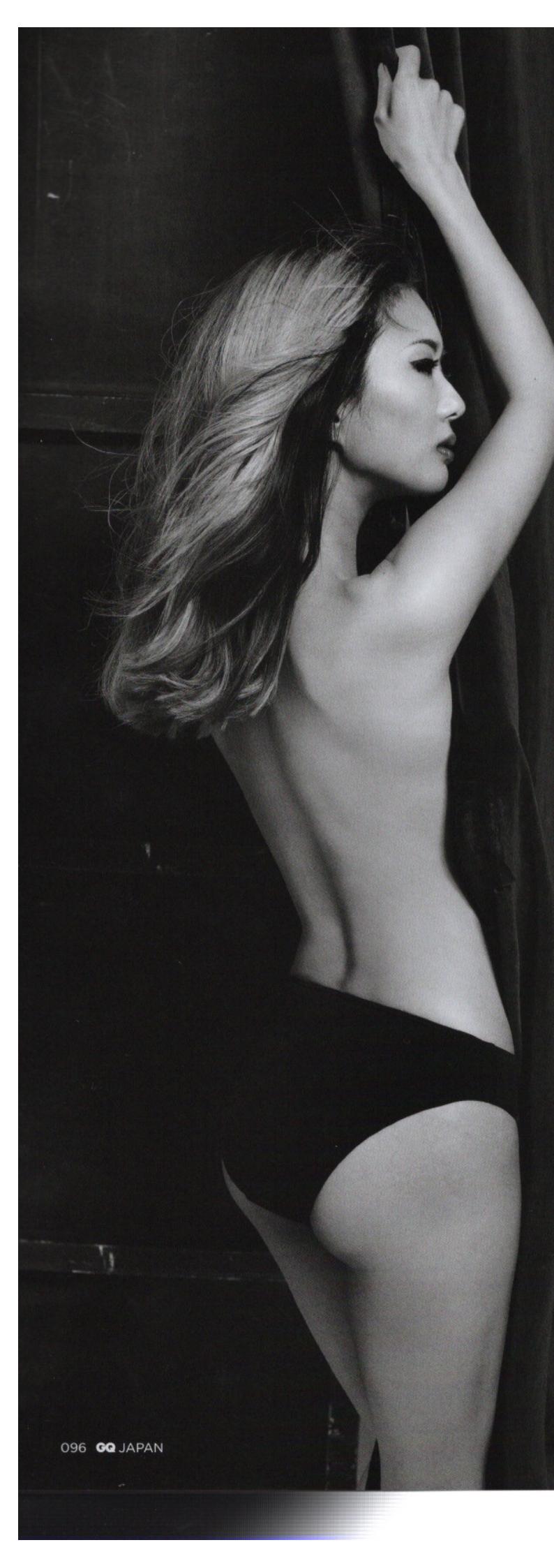
で、Chim↑Pomのメンバーとともにカンボジアに訪ねた。

「その人はもともと地雷を埋めていた人で、爆破とかもすごい好きで。撤去した地雷を爆破処理する際に、私のヴィトンのバッグや財布や、iPodとかブリクラ帳と一緒に爆破しに行きました。その残骸を日本を持って帰ってきて、チャリティオーラクションをやりました」

オーラクションで集めた資金は、地雷で足を失ったカンボジアの少年たちに義足を贈るために使われた。

エリイたちの活動は、物議も醸す。たとえば岡本太郎さんが描いた渋谷駅構内の壁画に福島第1原発





事故の絵を加えた“LEVEL 7 feat. 『明日の神話』”を発表するや、Chim↑Pomは“炎上”した。けれど、この件に関するエリイのスタンスは潔い。

「作品に対する批評とか批判は、よいと思われます」でも、「落書き」って報じたメディアもありますよね。ああいうのはどうですか？「誤報は、作品の意図が変わって正確に伝わらないから、伝える側にはもうちょっと勉強してほしいと思うけど、でも、実はあまり関係ないというか。美術作品は長い歴史をかけて淘汰されていったりするものなので、なんか一時期のみなさんの気の迷いには付き合ってられないというか」

『GQ』読者は アート作品を買うべき！

エリイは、アートに身も心も捧げているのだ。アートに殉ずる覚悟だ。そういうれば別のインタビューで読んだ、「派手さには欠けるがお金が入ってくるアーティストとは違う」という発言もすごい。

「まあ売れるのも才能があるから売れるんでしょうけど、なんだろうな、オレはこの絵を描いて売っている、イケている、いくら入ってくる、みたいなことを気にして、でも地雷は踏みたくない、ヘンなこともしたくない、っていうか。つまりアートに対する愛が感じられない。作品を後世に残そうとか、アートを愛しているという気概が感じられない」

エリイはアートを愛している？
「うちらはアートを愛してる。世界でいちばん愛してるんじゃないかな。あと、アートの神様も私のことを超愛してる」

確かに、アートで世の中を楽しくしようという活動からは、アートへの全幅の信頼が感じられる。

「うちら全員ポジティブなタイプで、その性格が作品や活動に反映されているのかもしれないですね」

そしてアートへの愛情が純粹すぎるからこそ、時々地雷を踏んでしまう。そっちの地雷を撤去するためにも、アートの存在感を上げる必要がありますね。

「ホント、そう思うんです。だからこうやって露したりしてるんですけど、『GQ』読んでる人ってお洒落な感じで、ホームパーティとかやって、よりモアハッピーな生活を求めてるでしょ。だったらアート作品を買ったりする楽しさの市場をもっと開拓していくてもいいんじゃないかな。作品を所有することで、心が豊かになったり、今まで気づかなかつことに興味がわいたりして、人生の幅が広がるよ」

エリイに話を聞いたことを自慢している場合ではなかった。見る目を肥やして、作品を買わないと！

エリイ

アーティスト

武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。2005年に6人でChim↑Pomを結成、社会に斬り込む作風で現代アート界に激震を起こす。現在、東京・南青山の岡本太郎記念館にて企画展『PAVILION』を開催中（7月28日まで）。